

文書館の企画展示

「香川を結ぶ、四国とつなぐ

～近代かがわ「道」のアーカイブズ～」

を開催します

明治時代になり近代国家としての道を歩み始めた日本。そのなかで、人々の行動範囲は大きく広がりました。江戸時代の讃岐に住んだ人々も、藩から香川県、そして四国さらには…とその活躍の場は拡大していきます。

そうした行動範囲の広がりを支えたものの一つが「道」です。今回の県立文書館企画展「香川を結ぶ、四国とつなぐ ～近代かがわ「道」のアーカイブズ～」ではその道、特に「道路」と「鉄道」について文書館所蔵のアーカイブズにより紹介していきます。

あの道にそんな人の関わりが？、香川最初の鉄道は今も残るあの路線だったのか、などご存知の方もそうでない方も、近代かがわ「道」のアーカイブズから、香川の各地が結び付き、さらに四国4県をつなぐ道が生まれた様子の一端をこの展示でご覧いただきます。

1 開催日時 **6月20日(金) ～ 8月31日(日) 9:00～17:00**
(休館日:毎週月曜日、祝日、7月22日(火曜日)、8月12日(火曜日))

2 会場 **香川県立文書館**(高松市林町2217番地19) **1階展示室**

3 観覧料 **無料**

4 展示内容 (資料数 36件(予定))「6 おもな展示資料」参照)

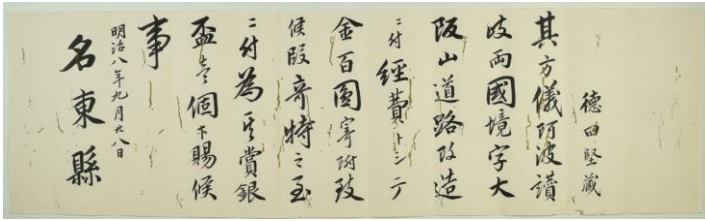
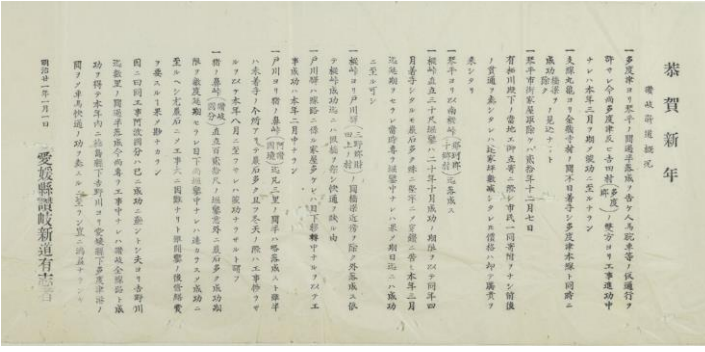
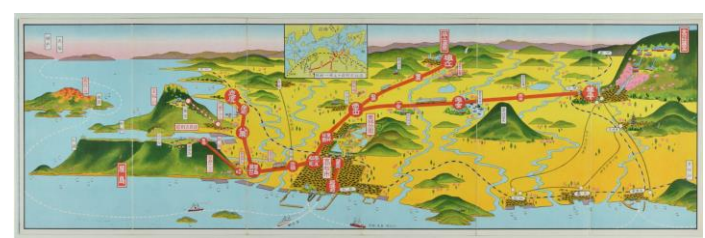
- ① **四国とつなぐ「新道」建設**:讃岐国、阿波国などからなる名東国時代に県内を結ぶために行われた大坂峠の改造、明治20年代に四国四県をつなぐことを目指した四国新道建設。この二つの工事を支えた香川の人々を記録資料で紹介。
- ② **香川を結び、四国とつなげる鉄道網の形成**:明治22年に開通した讃岐鉄道以降、県内で計画された多くの鉄道や、実現された鉄道による交通網の形成について、当時の計画書や鳥瞰図などから紹介。

5 関連行事

・**アーカイブズトーク**:展示担当職員による、展示室での展示解説

日 時:7月23日(水)～8月27日(水)の毎水曜日 11:00～11:30 参加無料

6 おもな展示資料

	(資料1)「褒状」 「阿波讃岐両国境字大坂山道路改造」経費への寄付金に対する褒状。こうした寄付金が有志者の募金として工事を支えており、なかには財田上ノ村、豊田郡河内村(どちらも現在の三豊市)といった、直接道路改良の恩恵を受けにくいと思われる県西部の人々からの寄附も見られることが興味深い。
	(資料2)「讃岐新道概況」 讃岐新道とは四国新道の讃岐部分の呼び名で、資料はその讃岐新道の建設状況の報告を年賀状の形で送ったもの。発行を担当したのは大久保謙之丞。謙之丞はこうした年賀状を年によっては350通以上送っていたことが、大久保家に遺された資料などからわかる。新道工事で広く協力を仰ぐことが、同時に負担となることを理解していた謙之丞は、こうした報告を丁寧に行うことで人々の理解を得ようとしたのであろう。
	(資料3)「四国鉄道須崎琴平間線路図」 明治25年(1892)に公布された鉄道敷設法を受け、四国でも琴平ー須崎(すさき)間、箸蔵(はしくら)ー徳島間、丸亀ー徳島間の鉄道建設が計画された。資料は明治27年に実施の現地調査で作成された線路図。多度津から猪(いの)ノ鼻(はな)峠越え、高知経由須崎までの路線案を図にしたもので、現在のJR土讃線との類似もあり実際の鉄道建設に影響を与えたことが予想される。
	(資料4)「讃岐遊覧電車御案内」 昭和の香川の鉄道は高松、坂出、丸亀、多度津といった県内の主要都市・港湾と琴平、塩江、屋島などの観光地を結ぶ、一大鉄道網を形成した。屋島、八栗のケーブルカーも建設されたほか、特に琴平では昭和5年(1930)の琴平急行電鉄の開通もあって複数の路線が乗り入れ、4つの駅が立ち並ぶこととなった。

■お問い合わせ先

香川県立文書館

〒761-0301 高松市林町2217-19

TEL(087)868-7171 FAX(087)868-7198

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/bunshokan/bunshokan/>